

(別紙7)

岩手県におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る評価報告

1 狩猟者の現状や課題等

本県では、ニホンジカは古くから五葉山地域に生息しているが、近年、県内全域へ生息域が拡大しており、農林業被害の増加や早池峰山周辺に生息する希少な高山植物への食害が進んでいる。

一方、鳥獣捕獲に中心的な役割を果たしてきた狩猟者が高齢化等しており、捕獲の担い手の育成や確保が課題となっているが、近年の普及啓発の取組みにより、わな猟を中心として一定の歯止めが掛かっているが、銃猟捕獲の担い手は伸び悩んでいる。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

狩猟免許を取得し、経験が浅い初心者の狩猟者（狩猟免許を取得して4年以内）を主な対象とし、捕獲技術の向上を目的としてシカの解体処理についての研修会を開催した。

参加人数 42名

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等

シカの解体処理については受講希望者が多く、関心が非常に高いことが感じられた。参加者は衛生的な作業方法、わなの架設方法、生きたシカを使用した保定・止め刺し・解体処理方法について技術習得することができた。

次年度以降も、開催場所を変更する等により継続して研修会を行う予定である。

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。